

村立図書館の建設に着手



岩室村長 鷲沢 勉

謹んで、新年のごあいさつを申し上げます。

村民各位の深いご理解とご協力をいただきまして、それぞれ計画いたしました事業も遅滞なく推進できますことを、心から感謝申し上げます。

さて、かねてからの懸案でありました間瀬小学校の統合が、地域住民の皆さんの温かいご理解を得て、実現することになりました。百二十余年の歴史を誇る間瀬小学校が閉校の運びとなるわけでありますので、後顧の憂いのないよう、充分配慮してまいりたいと考えております。

また、昨年八月に着工いたしましたデイスターセンターも、三月いっぱい竣工いたしますので、四月から業務を開始いたします。在宅介護を受けておられる皆さんの、ご利用を期待しております。

保健事業につきましても、本年は保健婦を一名増員し、四名体制で村民の健康

づくりに努めてまいります。昨年四月にオープンしました健康増進センター遊雁の湯『よりなれ』も、連日満員で嬉しい悲鳴をあげておりますが、皆さんにはご迷惑をおかけしている面もあろうかと案じております。利用客は、十二月末現在で四万三千人を超えておりますことを報告させていただきます。

次に岩室温泉の源泉の掘削であります。十二月いっばいようやく千五百メートルの掘削を終ることができました。正月早々、温度・湧出量等を精査いたしました。有効利用を図ってまいりたいと考えております。

平成八年度の新規事業といたしましては、村立図書館の建設を計画しております。村民各位の読書力の向上と、小・中・高校生、大学生に勉強の場を提供するものであります。規模としては、鉄筋コンクリート一部二階建、建築面積は約千五百平方メートルを予定し、八年・九年の二か年継続事業といたしたいと考えております。

また、小学校は二校とも大方の整備を終わりましたので、今年には岩室中学校のグラウンドの全面改修を考えております。中学校もいろいろな問題を抱えておりま

すので、グラウンドの整備を図ることで、子供たちが伸び伸びと運動を行い、明るい中学校になって欲しいと念願するものであります。

継続中の国営事業・大通川放水路も、関係各位の絶大なご協力をいただき、国道一六号線まで開削が進むものと思っております。また、沿線の基盤整備事業も着々と進み、今年には和納地区が完成いたします。これを機に、足腰の強い米作地帯になると期待いたしております。

昨年中は、阪神・淡路大震災に端を発し、オウムサリン事件等暗い出来事ばかりの年でありましたが、今年はどういう年になるのでしょうか。また、政情も多分に不安定なようではありますが、岩室村にとっては明るい豊かな年であること祈念いたしまして、新年のあいさつといたします。



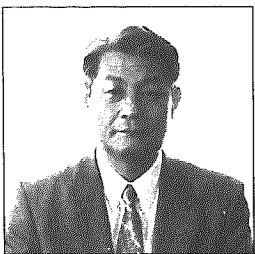
村勢の発展のために 決意も新たに！

村民の皆様、あけましておめでとございます。

昨年、阪神・淡路大震災で年が明け、不況とオウム事件に振り回されたような一年でありましたが、本村におきましては、村民の皆様の村政に対する温かいご理解とご協力により、大過なく過ごさせて頂きましたことを、厚く御礼申し上げます。

岩室小学校も内外共に整備も完了し、四月からは間瀬小学校との統合も予定されております。間瀬小学校の統合につきましては、歴史的な事柄でもあり、地域の方々としては大事件でありますので、いろいろのご意見もあつたと思っております。小異を越えて示されたご理解に対しまして深い敬意を表すものであります。

今年には新食糧法が施行され、農家にと



村議会議員 和田 高明

りましては新たな試練の第一歩となりませんが、良質米の生産地としては、ある意味で飛躍も期待できると思っております。他に負けない良質米の生産に努めると共に、流通販売面では、農協や行政の強力な指導・協力のもとで、生産者と消費者が直接契約のできるような方法を確立する必要があると思っております。

また、観光や商工業の振興は、村の財政を潤し雇用の促進を高めますので、これらの発展・育成策には真剣に取り組む必要があります。国政の不安定な様子は変らないようでありますが、政策的には、景気の浮揚を目的とした建設的な事業に対する財政政策を推進しているようであります。しかし、村としてはソフト面での充実も欠くことができません。社会福祉の向上や学校教育の問題点の改善等、様々な問題が山積しております。

私たち現職の議員の任期は、二月十三日まででありますので、次の選挙は一月十六日告示、二十一日投票と決まっております。過去四年間、皆様よりいろいろのご指導・ご叱声やご協力をいただきながら、各議員はそれぞれに、住民福祉の

政治家のあいさつ状等は禁止されています！

公職選挙法の規定により、村長や議員などの政治家（候補者、候補者になろうとする者及び現に公職にある者）は、選挙区内にある者に対し、答礼のための自筆によるものを除き、年賀状などの時候のあいさつ状（電報なども含む）を出すことは禁止されています。

ことは 子年 1996年

今年 は子年。昔は夜になると、ネズミが天井裏を走り回り、チュウチュウと鳴く音が聞こえたりしたものです。最近純粋な日本家屋が減ってきているためか、家屋の構造が変わって来たからか、都会では天井裏を走り回り鳴いたりしているネズミは、少なくなってきたのではないのでしょうか。

ネズミ

は、数も種類も多く、ほ乳類の約半数、千七百種を占めるといわれています。しかも、ほぼ全世界に分布しています。ネズミ算という言葉もあるように、繁殖力があつて、一回に二十四の子を生む種類もあります。

人間は、昔からネズミの害に悩まされてきました。ノネズミは農作物を荒らし、牧草地の草の根を食べたりします。イエネズミは貯蔵食料を食べ、ときには電線やガス管をかじって人間を困らせたりします。また、下水道などの不衛生な場所を通り道にするため、伝染病であるペストをもたらすこともあります。古代アテナやローマ帝国が滅亡したのは、ネズミがもた

らしたペストのためだという説もあります。一方、ネズミの仲間でも、ハムスターなどの種類は、実験動物として医学の進歩には欠かせません。

身近

な動物だけに、ことわざにもしばしば登場します。弱者でも追い詰められると強者に逆襲するといふ意味の「窮鼠猫を噛む」や、前ふれの騒ぎばかり大きくて、実際の結果は極めて小さいことの例えである「泰山鳴動して鼠一匹」などは、よく知られています。「頭の黒い鼠」とは、頭髪の黒い人間を鼠になぞらえて、物を盗む人のことです。「鼠の嫁入り」は、あれこれと選んでみても、結局は変わりばえしないところに落ち着くという例えです。

さて、子年は十二支のトップ。昨年は、天災や事件の多い暗い年でしたが、今年には気分一新して、いい年になりますように。

